

民間航空セクターは、インド国内で最も急速に普及している産業の1つ モディ首相の関心も高し！

メイド・イン・インド ～インドよ、天高く翔べ～

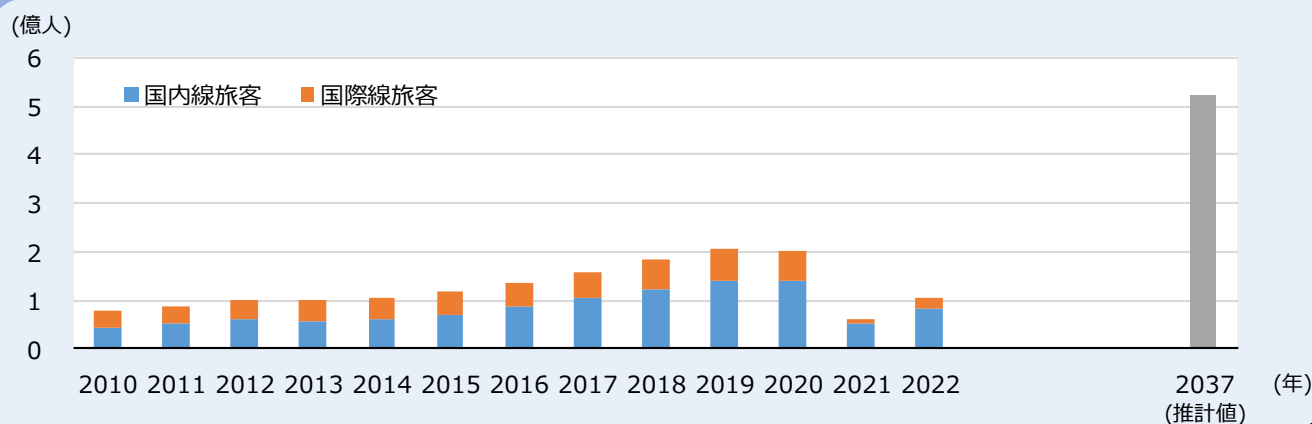
▶ 脚光を浴びる印航空セクター

現在インドでは、中間所得層の増加、LCC（格安航空会社）間の健全な競争、主要空港でのインフラ整備、そして政府からの支援策等が奏功し、インド航空セクターにプラスの影響を与えています。

2023年4月、モディ印首相は、インド国内の既存の空港は近代化され、新しい空港は早いペースで建設され、記録的な数の人々が飛行機を利用するようになったと声明を出し、このコネクティビティの向上は商業や観光に大きな弾みをつけていると自信を見せました。

アジア地域は遅くとも2024年から2025年にはコロナ前の水準を回復すると予測されています。インド航空輸送による旅客者数をみると、2010年には7,700万人が利用、10年後の2020年には2億人、その約20年後の2037年には5.2億人に増加すると予想されています。インドの中間所得層が拡大し、より多くの国民が飛行機を活用するようになれば、さらに成長する可能性が大いにあります。

インド航空輸送の旅客者数の推移



▶ 様々な形で印航空セクターを後押し

1. 2016年国家民間航空政策

政府は手ごろな運賃と接続性を強化することで、多くの人々に飛行機サービスを提供を目指す。航空機の整備・修理・オーバーホールサービスに対する減税等を通じて、インド航空セクターへの世界的な参加を促進。

2. 地域空港開発計画UDAN

UDAN（ヒンディー語で、“飛行”）は、Ude Desh Ka Aam Naagrik（ヒンディー語で、“一般国民を空へ飛ばそう”）の略語。運航サービスが不十分な地方空港等の開発・運営の促進や、コネクティビティの活性化・インド経済の発展を目的とした政府の開発計画。

3. 印航空会社エア・インドの画期的な契約

2023年2月、エア・インドは、米ボーイング社から220機、欧州エアバス社から250機導入を決定。効率性・信頼性が向上し、悪天候による飛行中止の減少、運航コスト・CO₂排出量削減が期待。また本件は、バイデン米大統領も信頼を寄せるなど、ビジネスに留まらず、自国の製造業を改めてアピールできる深い外交的意味合いにも発展。

ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会